

# 会社案内



株式会社 丸順

名古屋証券取引所 市場第二部  
証券コード：3422

名証 I Rエキスポ2019  
2019年7月19日-20日

*Make our dreams by Technology*

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

## 5.投資家の皆様へ

\* 配当について

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

## 5.投資家の皆様へ

\* 配当について

<b>社名</b>	株式会社 丸順
<b>創業/設立</b>	1952年7月1日創業/1960年1月4日株式会社設立
<b>本社</b>	岐阜県大垣市上石津町乙坂130番地 1
<b>代表者</b>	代表取締役社長 齊藤 浩
<b>従業員数</b>	単体 311名 / 連結 2,300名 (2019年3月31日現在)
<b>株式</b>	名古屋証券取引所 市場第二部
<b>資本金</b>	19億5,086万円 (2019年3月31日現在)
<b>事業内容</b>	自動車用車体プレス部品製造 自動車用精密プレス部品製造 各種金型の設計・製作 治具・検具の設計・製作

## 創業～2000年

1952年7月	1960年1月	1963年4月	1994年7月	1997年5月	1999年2月
丸順精器工業を創業。自動車車体用プレス金型の製作を開始。	丸順精器工業株式会社を設立。	本田技研工業株式会社と自動車部品用プレス金型の取引開始。	タイ・アユタヤ県にタイ・マルジュン社を設立。	株式会社丸順に社名変更。	名古屋証券取引所市場第二部に上場。



2017年5月	2006年7月	2003年10月	2003年8月	2001年11月
東プレ株式会社と資本業務提携を締結。	インドのベストテックス・MM・インディア社の設立に資本参加。	中国・湖北省武漢市に武漢丸順汽車配件有限公司を設立。	上石津工場に3000tトランスファープレス及び800tブランキングプレスを導入。	中国・広東省広州市に広州丸順汽車配件有限公司を設立。



## MARUJUN の一貫生産体制

開発→設計→金型・治具・検具製作→量産まで全てのものづくり工程を一貫して対応

### 研究開発

#### 研究開発活動

高強度・高剛性なハイテン材の加工をはじめとする次世代のものづくりのためのさまざまな研究開発

社会  
ニーズ

環境  
ニーズ

軽量化

-高強度・高剛性-  
ハイテン材  
(超高張力鋼板)

### エンジニアリング

#### 金型事業

蓄積したノウハウと最新の加工技術を融合した、高品質で高効率な生産体制を構築

超高張力  
鋼板対応

超大型  
部品対応



### 生産

#### Body部品事業/電動化部品事業

あらゆる種類の金型づくりを、海外拠点と連携しグローバルに展開

高効率

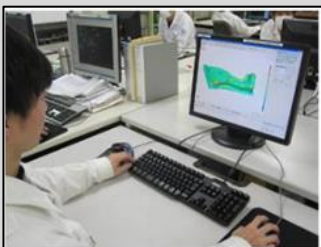
高品質





エンジニアリング  
事業

## 研究開発

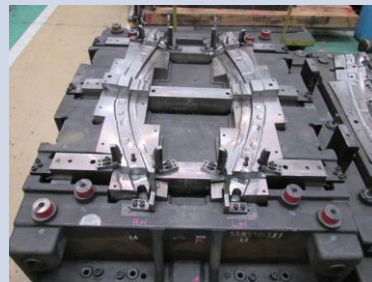


65年続く金型事業  
のノウハウ蓄積

独自  
技術

技術  
深化

様々な研究開発に  
取り組み、  
安全と信頼を提供



金型：フロントインナーアッパーヒール

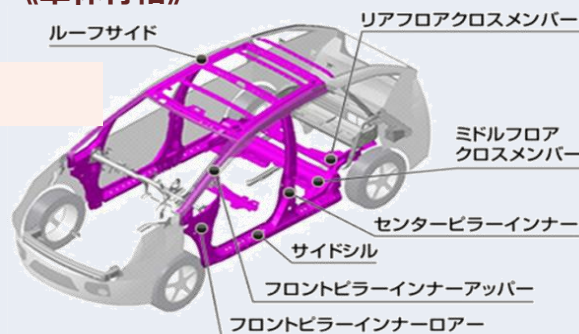


検具：ヒールリアフロッパー



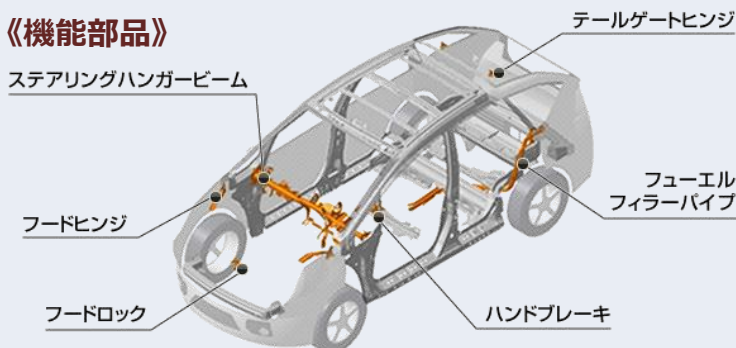
溶接治具：PCUケースアッシー

## 《車体骨格》



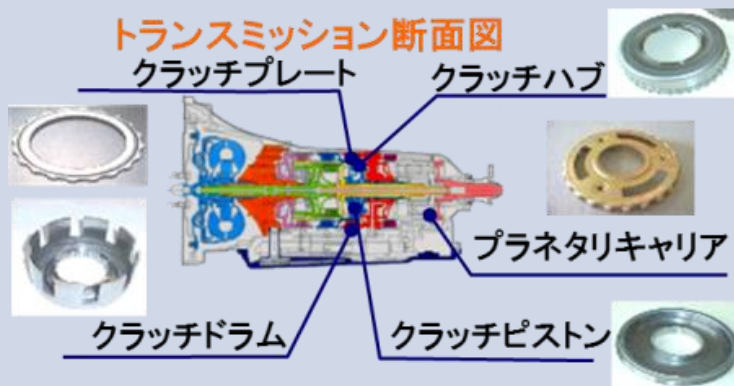
## 《機能部品》

ステアリングハンガービーム



ボディ部品事業

## トランスミッション断面図



ハイブリッドカー部品の心臓部である、バッテリー及びPCUのカバー部品



精密・電動化  
部品事業

【海外拠点】 子会社 3 社、  
出資会社 1 社



タイ・マルジュン社  
(子会社)



FUEL TANK



<主力製品>  
インフレーター、FUEL TANKなど

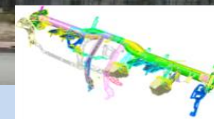
武漢丸順汽車配件有限公司  
(子会社)



バンパービーム

<主力製品>  
ステアリングハンガービーム、  
バンパービームなど

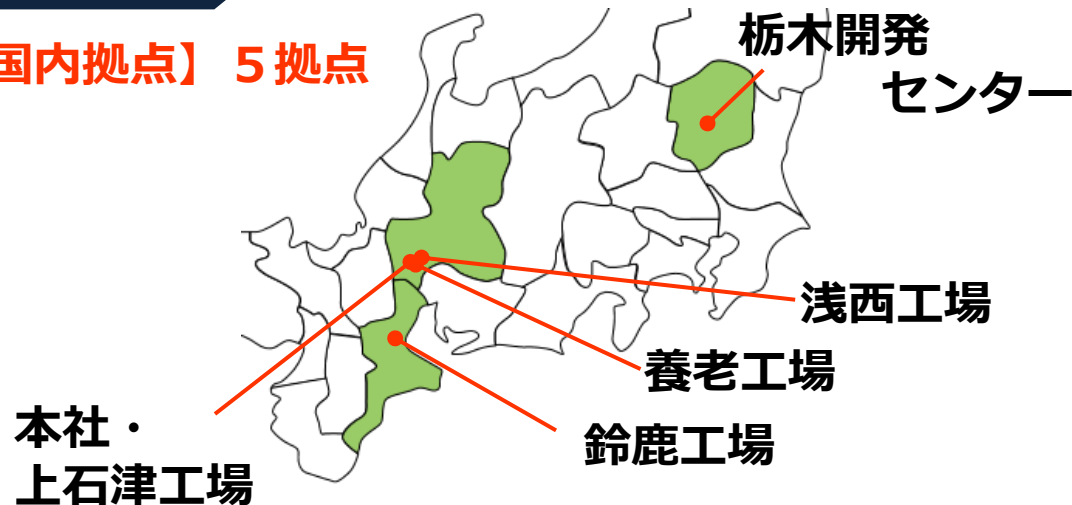
広州丸順汽車配件有限公司  
(子会社)



ステアリング  
ハンガービーム

<主力製品>  
ステアリングハンガービーム、  
フィラーパイプなど

【国内拠点】 5 拠点





## 各拠点でのサプライヤー賞受賞

### ◆【丸順】

#### Supplier Award優良感謝賞

本田技研工業株式会社より  
Supplier Award優良感謝賞  
(品質部門)を受賞  
品質部門では初めての受賞



### ◆【広州】総合優秀サプライヤー賞

本田汽車有限公司より受賞  
品質・搬入・コストの総合面から受賞



### ◆【武漢】優秀サプライヤー賞

東風本田汽車有限公司より受賞  
品質・搬入・コストの総合面から受賞



## グループ全拠点でのスマート倉庫導入

丸順・タイ・広州・武漢の全ての拠点でスマート倉庫の導入が完了し、稼働を開始。中長期5か年計画の事業戦略の1つである「全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化」に基づき、物流改善（レイアウト・人員配置・物流ルート等の最適化）を重視し、物流費や労務費等の間接コスト削減に貢献



**構造改革以降の様々な取組みが実を結び、  
主要客先よりサプライヤーとしての高い評価をいただいた**

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

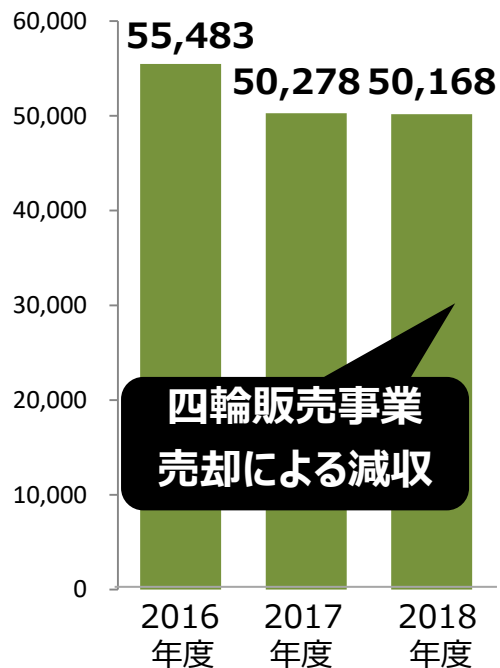
## 5.投資家の皆様へ

\* 配当について

## 売上高

50,168百万円

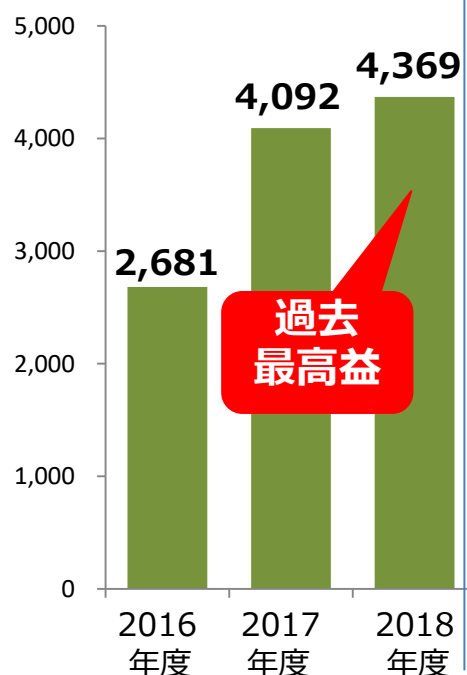
前年同期比▲0.2%



## 営業利益

4,369百万円

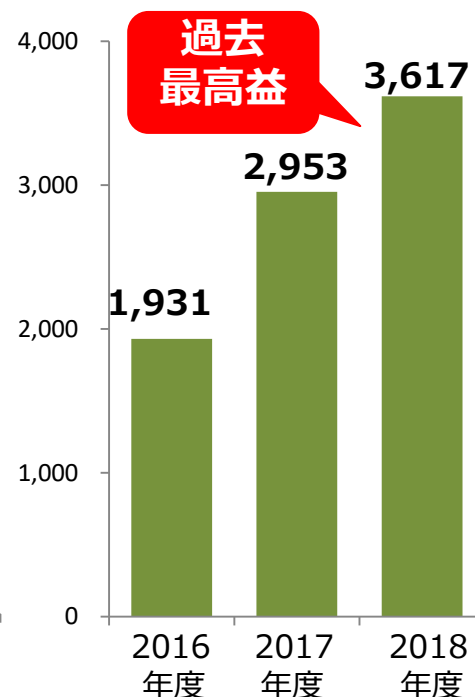
前年同期比+6.8%



## 経常利益

3,617百万円

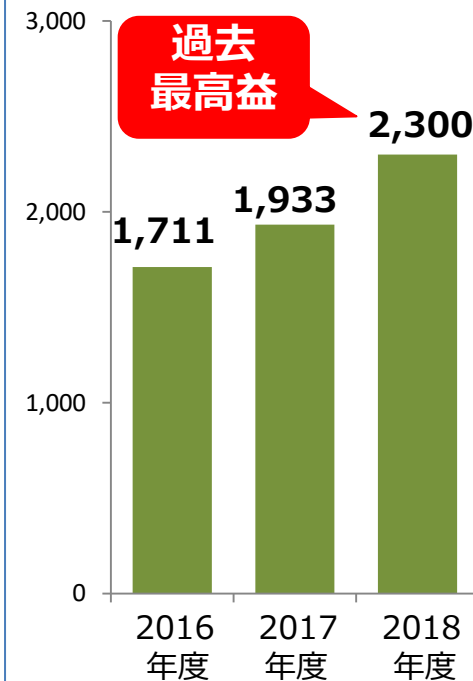
前年同期比+22.5%



## 親会社株主に帰属する 当期純利益

2,300百万円

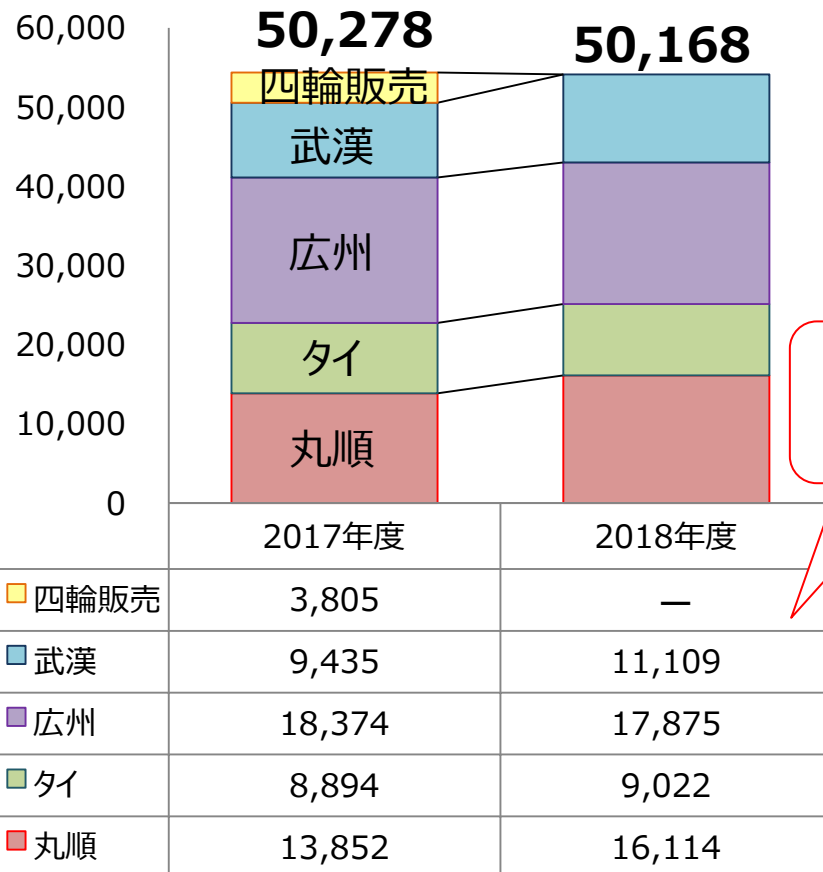
前年同期比+19.0%



売上高は前年同水準となったものの、各利益では3年連続過去最高益を更新  
中長期5カ年計画1年目として順調なスタートを切った

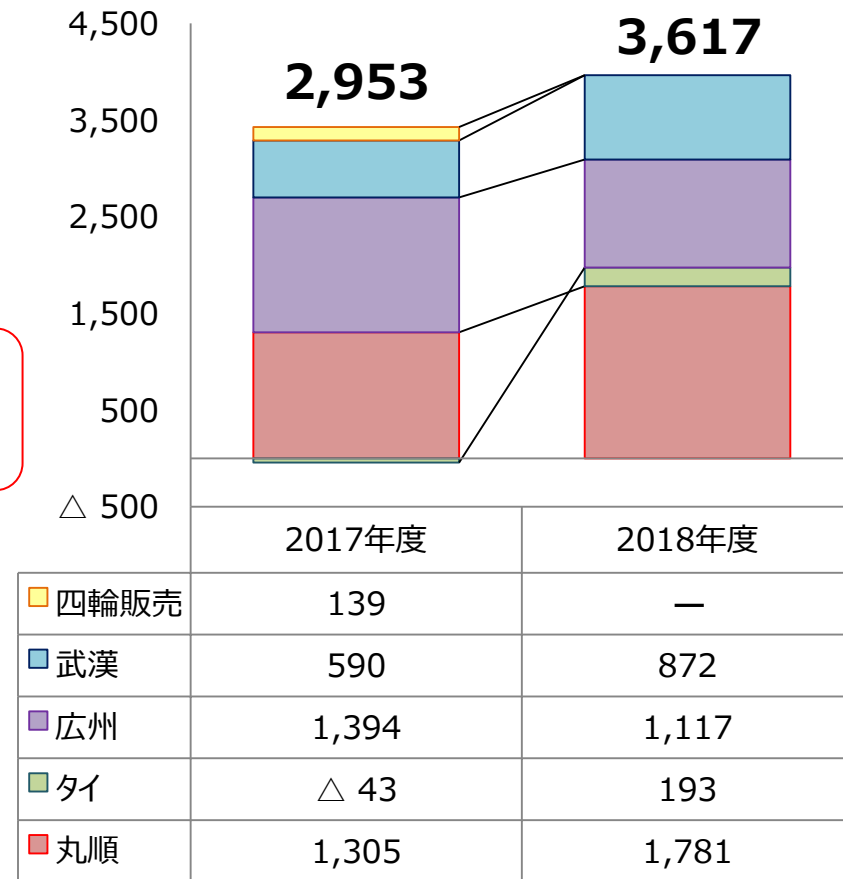
(単位：百万円)

## セグメント別売上高



四輪販売事業  
は売却  
(非連結化)

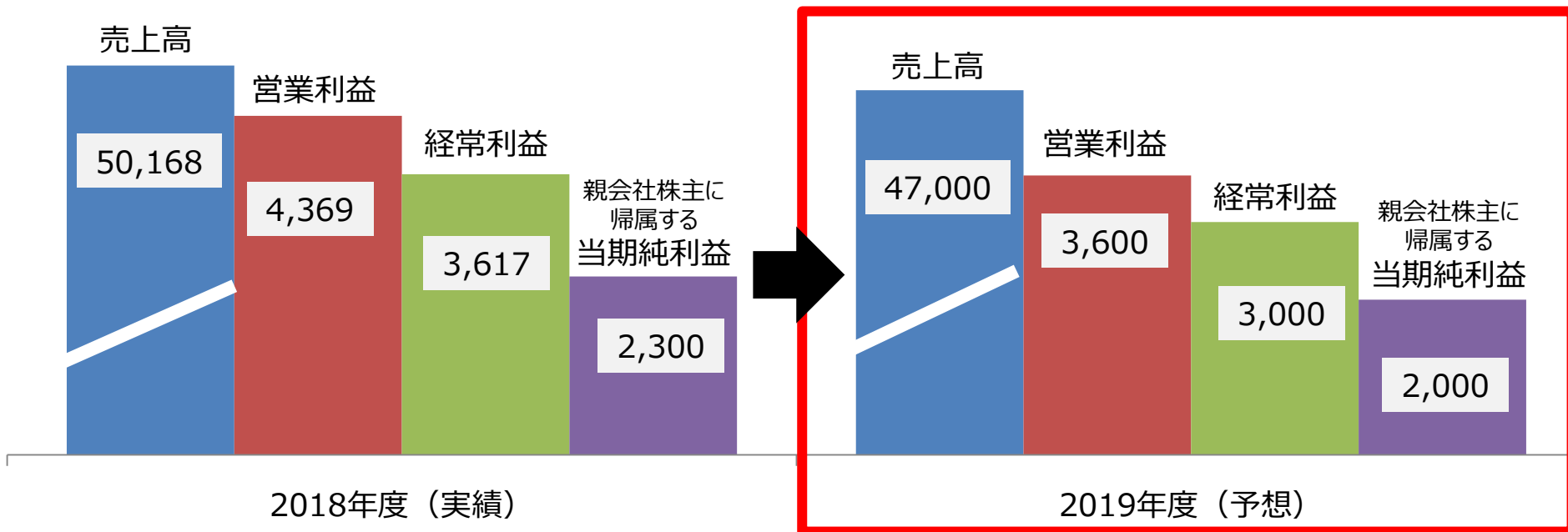
## セグメント別経常利益



※セグメント別の業績は、セグメント間の取引金額を含む ※合計金額は消去後の数字

**広州において品質コストの上昇等により前年比減収減益となったものの  
その他セグメントについては前年比増収増益**

## 2018年度（実績）・2019年度（業績予想）業績



丸順：消費税増税等による外部環境変化の影響、新大型プレス機導入等の内部環境変化あり  
 タイ：経費や労務費等の固定費削減の継続的な施策による効果が徐々に表面化  
 中国拠点（広州/武漢）：中国自動車業界の影響を受けた客先減産を施策の積み上げで補う

**2019年度業績予想は中国経済の不透明感により前年比減収を予測するも、  
 各種施策取組みを実施することで利益率は前年同水準を目指す**

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

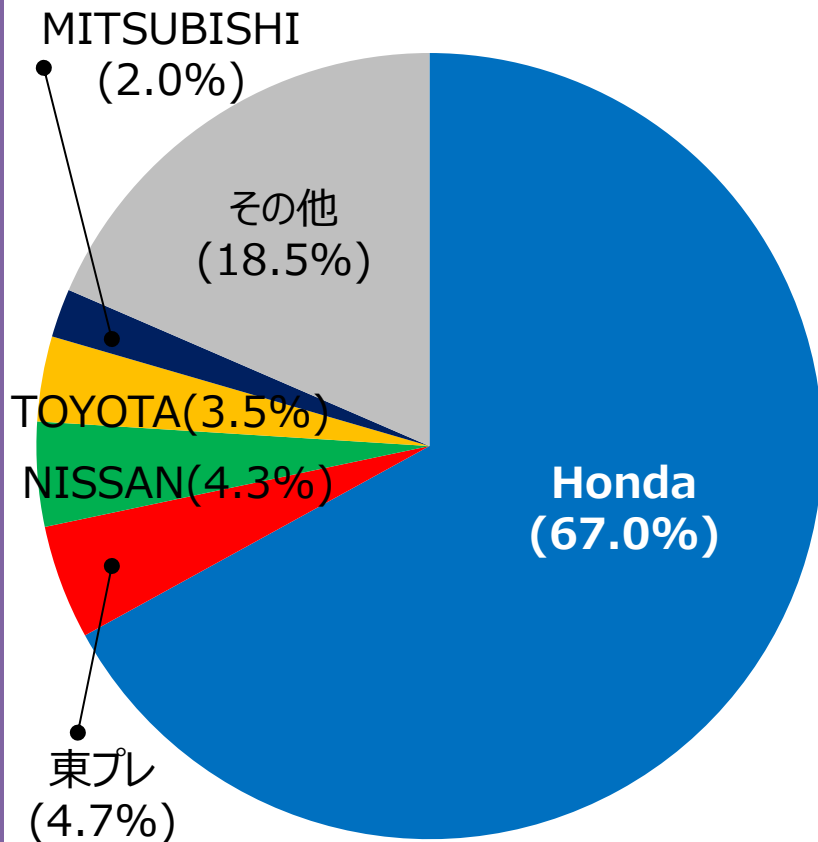
## 5.投資家の皆様へ

\* 配当について



## ◆ 連結主要客先別売上高比率

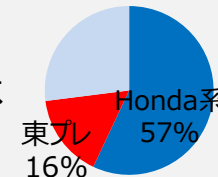
(2018年度実績)



## ◆ 拠点別主要顧客

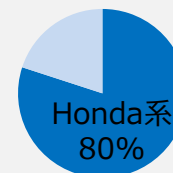
### 丸順

本田技研工業 / 東プレ  
Panasonic / アイシン精機 / トヨタ車体  
ゲスタンプ 武蔵精密 / 日産車体



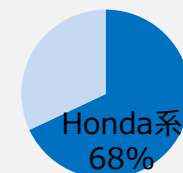
### タイ

Honda Automobile (Thailand)  
Thai Honda Manufacturing  
Suzuki Motor (Thailand)  
Daicel Safety Systems(Thailand)  
Topre (Thailand)



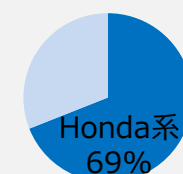
### 広州

広汽本田汽車 / 東風本田汽車  
广汽三菱汽車  
广汽菲亚特克莱斯勒汽車 (FCA)  
伟巴斯特车顶系统 (Webasto)



### 武漢

東風本田汽車  
鄭州日産汽車  
法雷奧集团 (Valeo)  
广州小鹏汽车



Hondaを中心としながらも、東プレをはじめHonda以外の受注増加を全拠点で加速中

## ◆ 拠点別主要受注車種

丸順

Honda

「N-BOX」

「N-VAN」

「FIT」



NISSAN

「DAYZ」

「ノートe-POWER」



SUBARU

「フォレスターe-BOXER」



タイ

Honda

「CIVIC」

「JAZZ」

「CR-V」



SUZUKI

「CERELIO」



汎用エンジン

「FUEL TANK」



広州

Honda

「ACCORD」

「CRIDER」



TOYOTA

「CAMRY」



FIAT

「Jeep」



武漢

Honda

「CIVIC」

「CR-V」



NISSAN

「NAVARA」



小鹏

「G3」



## 丸順

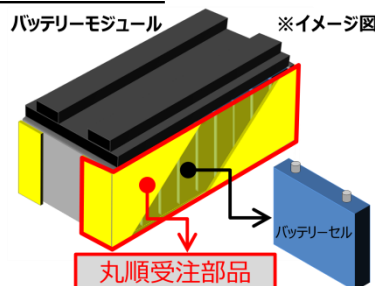
### ◆ 日産「デイズ」量産開始

2019年3月発売「デイズ」部品の量産を開始。受注部品はハイテン材を使用した部品も含め、骨格部品を中心に100点以上。



### ◆ バッテリーモジュール構成部品受注

車載用電池パックのバッテリーモジュール構成部品を初めて受注。バッテリーモジュールを組み上げる際、バッテリーセルを締結する部品。大手メーカー2社より受注。



## 広州

### ◆ VW車種サンルーフ受注

創業以来初となるVW（フォルクスワーゲン）社向けサンルーフ部品を受注。中国市場では、欧州メーカーシェアが高く、また、サンルーフ装着率が高いことから今後の継続受注を図る。



### ◆ 大型バッテリーケース量産開始

広汽本田汽車有限公司として初となる、電気自動車V E-1のバッテリーケース及びカバーの量産を開始。また、東風汽車有限公司初の電気自動車にも同様のバッテリーカバーを納入予定。



## タイ

### ◆ Honda「アコード」電動化関連部品受注

2019年夏頃タイ国内で生産開始予定のアコードハイブリッドのIPU関連部品を受注。



## 武漢

### ◆ 現地電気自動車メーカーとの取引開始

中国の電気自動車メーカーである「小鹏汽車」との取引を開始。中国現地電気自動車メーカーとの取引は初めて。



各拠点で順調に新規部品の受注を獲得。新規メーカーとの取引も拡大中

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

## 5.投資家の皆様へ

\* 配当について

【中長期ビジョン (2019年3月期-2023年3月期)】

中長期ビジョン

## 技術で夢を

- *Make our dreams by Technology* -

自動車の**軽量化・電動化**の領域で、  
お客様に**圧倒的な技術力**で貢献し、  
**競争力基盤・財務体質**の向上を目指す

中長期基本戦略

1. 東プレ(株)提携シナジー最大化による財務体質強化
2. グローバルでの金型事業の強化・拡大
3. スーパーハイテン技術の競争力強化
4. 電動化関係部品の受注拡大
5. 全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化
6. 人材の「人財化」

追加事業戦略

- ① ICTを活用したモノづくりの進化と業務改革の推進
- ② 業務改革による間接コスト削減
- ③ 次世代幹部育成(若手の登用・抜擢)

2023年3月期  
連結目標値

- 営業利益率 9%以上
- 自己資本比率 40%

2019年から3つの事業戦略を追加し、  
更なる企業価値の向上と連結目標値の達成を図る

## 【東プレ株式会社 会社概要】

社名	東プレ 株式会社 ( Topre Corporation )
設立	1935年4月30日株式会社設立
資本金	56億1千万円 (2019年3月末現在)
売上高	連結2,013億6千5百万円 (2019年3月期) 単独1,120億7千3百万円 (2019年3月期)
株式	東京証券取引所市場第一部上場
本社	東京都中央区日本橋3-12-2 (朝日ビル)
代表者	取締役社長 内ヶ崎 真一郎
事業所	工場/相模原、広島、栃木、岐阜、埼玉、福岡 (関連会社) 等
関連会社	国内/7社、海外/6社 (中国、タイ、インドネシア、インド、アメリカ、メキシコ)
従業員数	連結4,248名 / 単独1,484名 (2019年3月末時点)
事業内容	自動車用板金プレス製品の開発・製造及び販売、 冷凍冷蔵車の開発・製造など



# 1) 東プレ(株)との提携シナジー最大化による財務体質強化②

2017年5月11日

東プレ株式会社との資本業務提携を発表



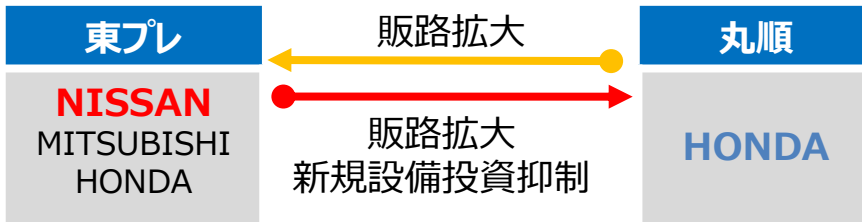
財務体質の強化 + 中長期的な成長戦略の加速

提携内容

- ① 生産・金型調達の補完
- ② 人材交流とノウハウの共有
- ③ 共同購買の検討・推進
- ④ 技術領域における人材・保有技術等の交流

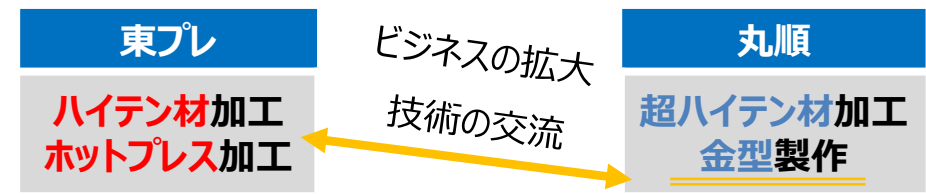
提携の主なメリット

### ① 販路拡大—互いの主要取引先へ販路を拡大



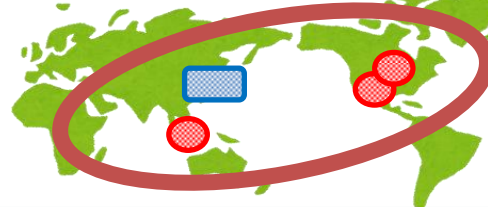
### ② 技術力強化

—得意技術の共有・活用により相互の技術力を強化



### ③ 生産拠点の補完—両社拠点の有効活用による、グローバル競争力の強化

国内	
東プレ	関東、九州
丸順	東海



海外	
東プレ	アメリカ、メキシコ、タイ、中国、インドネシア
丸順	タイ、中国

提携メリットを十分に活用し、財務体質強化・中長期的な成長戦略の強化を推進

## 【提携シナジー進捗状況】

## 生産領域

- **日産DAYZ部品量産開始**(2019年3月)  
提携後、初めて企画段階から関与
- **次期日産ROOX部品受注確定**
- **新3000tプレス機導入**  
競争優位性の高い超ハイテン部品の受注拡大に対応。新プレス機は2019年10月稼働予定
- **東プレ向け金型受注の拡大**  
国内向け金型受注の拡大及び北米向け金型の受注決定



## 人材領域

- **新原価管理手法展開中**  
東プレ原価管理ノウハウを共有化し、個別原価・投資評価等の新管理方法を展開中
- **営業部門要員の相互派遣**  
⇒受注競争力強化、相乗効果

## 購買領域

- **物流用容器の仕様共有化**  
⇒輸送費の減少、容器投資の減少
- **購入部品・製造委託先メーカーの紹介**  
⇒生産能力・受注競争力強化

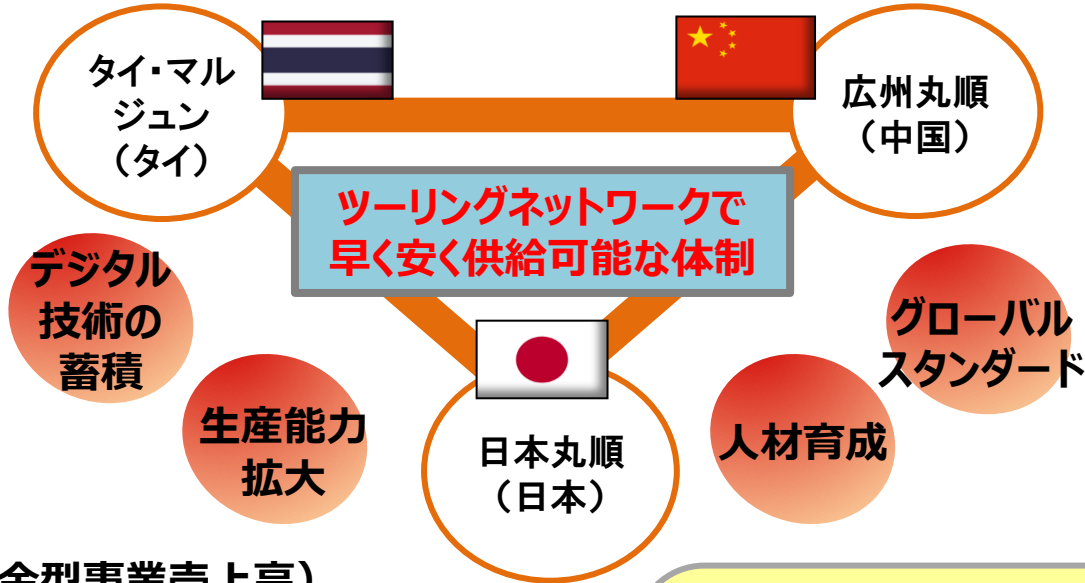
## 技術領域

- **売価/見積り基準の共有化**  
相互の長所を吸収し、自社へ反映
- **技術交流会の実施**

提携シナジーを最大限に発揮し、各領域とも順調に推進中

# 2) グローバルでの金型事業の強化・拡大

## 【グローバルネットワーク】



## (金型事業売上高)



2018年3月期

2019年3月期

- 日本・中国・タイ全ての国に金型事業を保有している当社の強みを生かし、**グローバルでの受注拡大を図る。**
- 2019年3月期売上高は、前年比**約63%UP**

## 【大型NC加工機導入】



自動化

高速度

高性能

内製能力強化

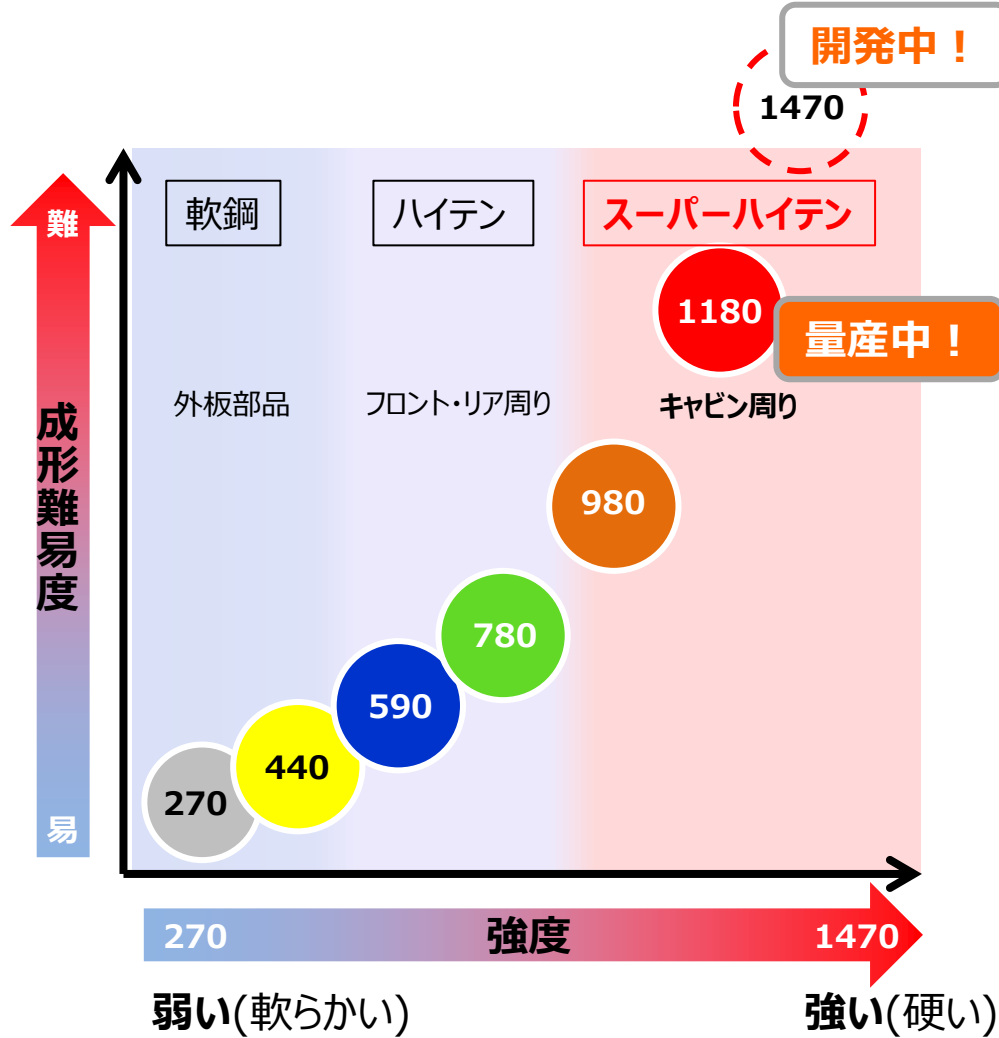
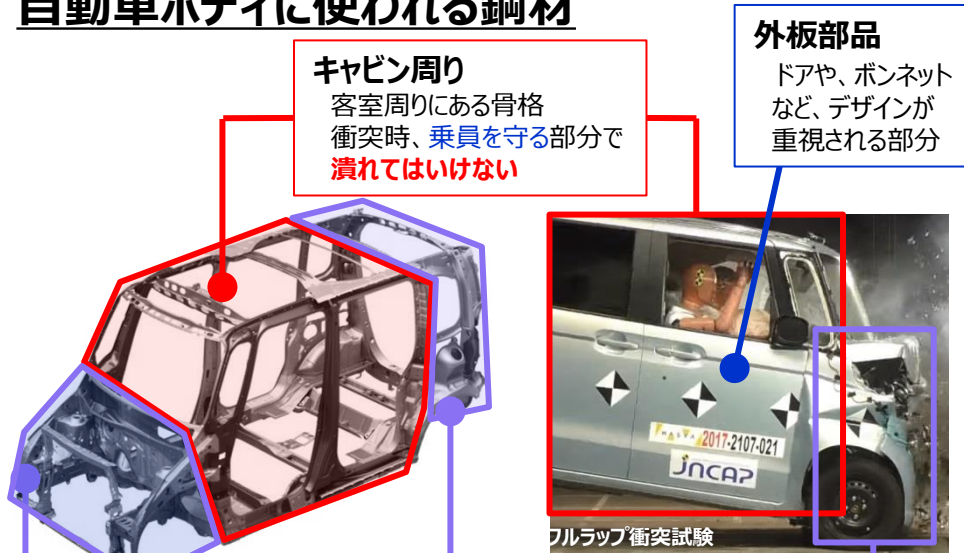
原価低減

受注競争力強化

**2023年3月期目標：売上50億円(海外含めて80億円)、  
営業利益5億円(海外含めて8億円)を目指す**

# 3) スーパーハイテン技術の競争力強化①

## 自動車ボディに使われる鋼材



1180	スーパー ハイテン	強度	非常に高強度 非常に難易度高
980		成形	
780	ハイテン	強度	強度は高い 比較的難しい
590		成形	
440	軟鋼	強度	強度は低い 容易
270		成形	

スーパーハイテンは人の命を守る「キャビン(客室)」周りの骨格に使用

## 【軽量化の効果とハイツン材】



自動車業界では環境に配慮した低燃費の自動車の開発が進んでいる。

**軽量化と車体剛性を  
両立させる  
超ハイツン材への  
移行は課題**

## 【製法の違いによるハイツン化への取組みの違い】

	環境	コスト	生産性	重量	成形難易度
冷間ハイツン	○	○	○	○	難
ホットスタンプ	×	×	×	○	易

※彼我比較

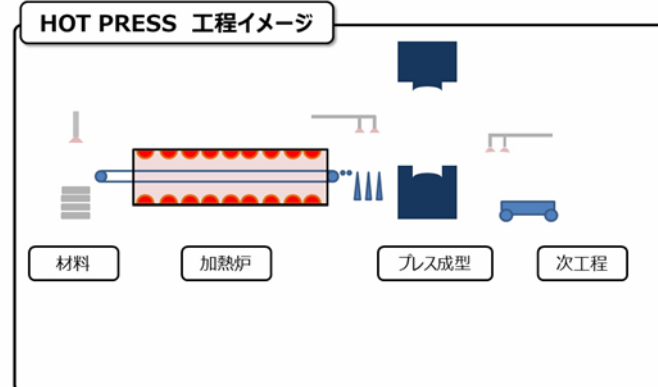
### ＜冷間ハイツンの製法＞

金型で挟んで形状を整え、  
穴あけ/切断一連加工  
**1分間に約20個**の生産性



### ＜ホットスタンプの製法＞

鋼板を**900°C**に加熱し、  
金型で挟みながら冷却。  
**1分間に3~5個**の生産性



丸順は冷間超ハイツン技術を進化・構築し、お客様ニーズ・環境ニーズに貢献



## <冷間ハイツの製法>





## 【軽量化の効果とハイツン材】



自動車業界では環境に配慮した低燃費の自動車の開発が進んでいる。

**軽量化と車体剛性を  
両立させる  
超ハイツン材への  
移行は課題**

## 【製法の違いによるハイツン化への取組みの違い】

	環境	コスト	生産性	重量	成形難易度
冷間ハイツン	○	○	○	○	難
ホットスタンプ	×	×	×	○	易

※彼我比較

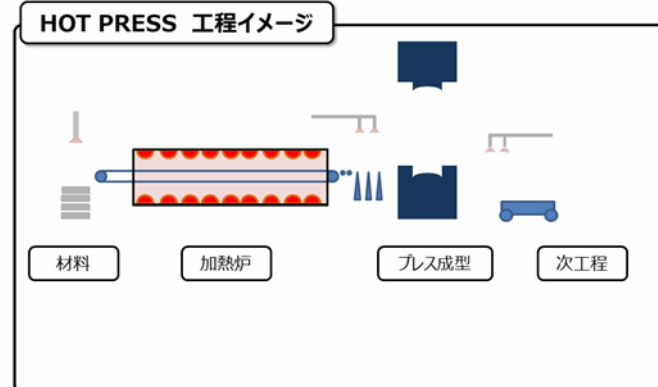
### ＜冷間ハイツンの製法＞

金型で挟んで形状を整え、  
穴あけ/切断一連加工  
**1分間に約20個**の生産性



### ＜ホットスタンプの製法＞

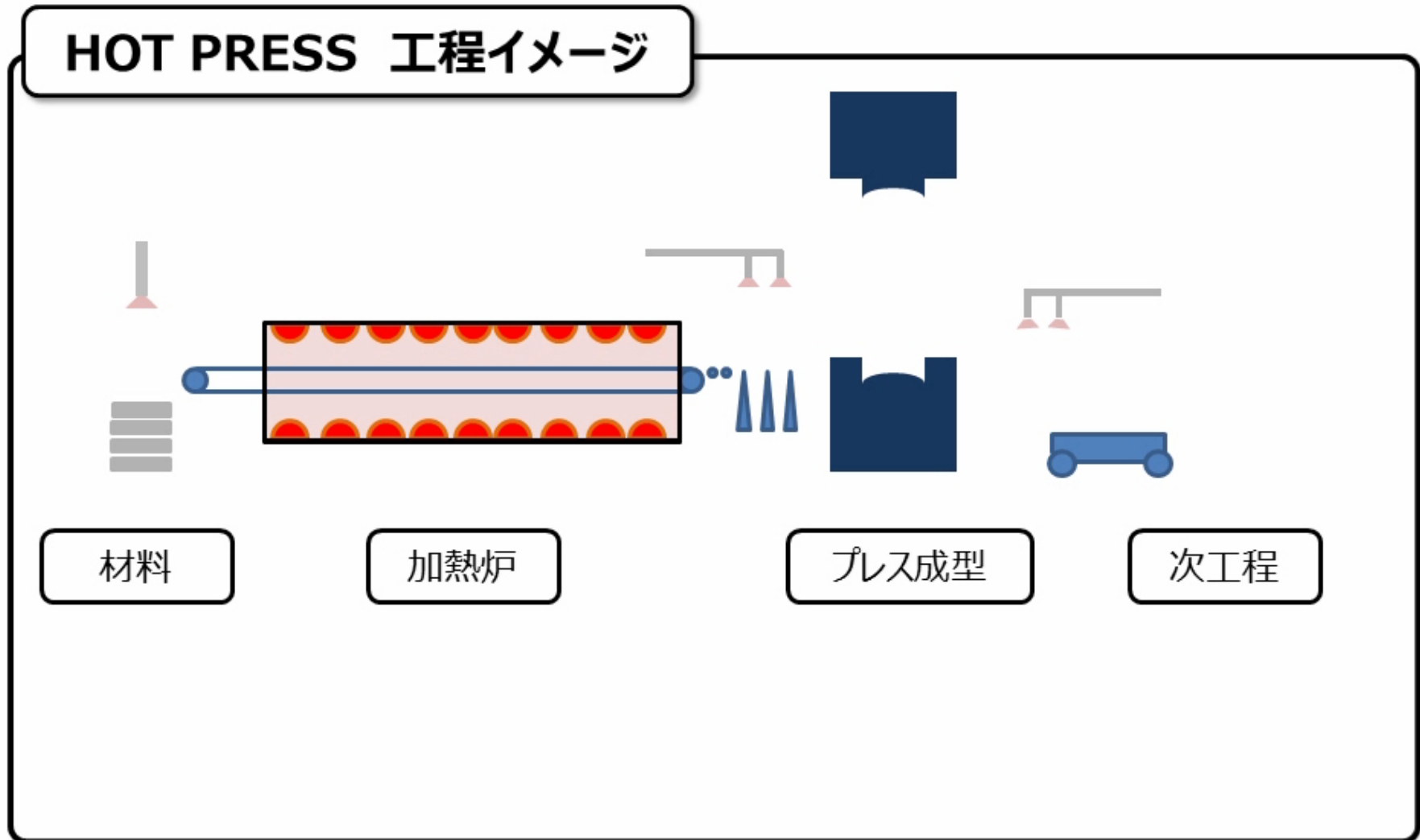
鋼板を**900°C**に加熱し、  
金型で挟みながら冷却。  
**1分間に3~5個**の生産性



丸順は冷間超ハイツン技術を進化・構築し、お客様ニーズ・環境ニーズに貢献

### 3) スーパーハイテン技術の競争力強化②

#### <ホットスタンプの製法>

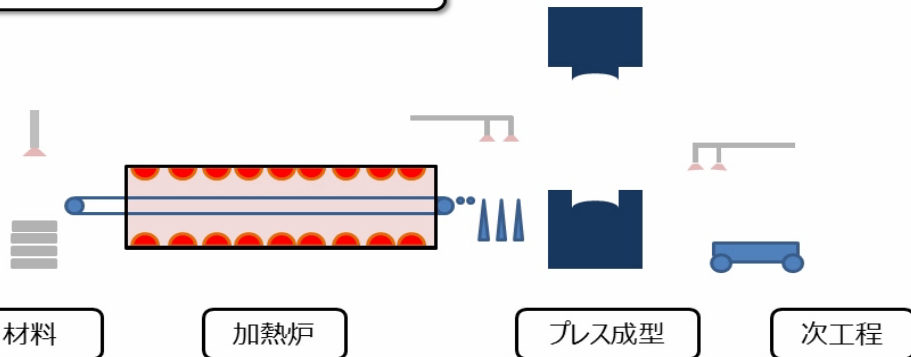


### 3) スーパーハイテン技術の競争力強化②

冷間プレス 工程イメージ



HOT PRESS 工程イメージ



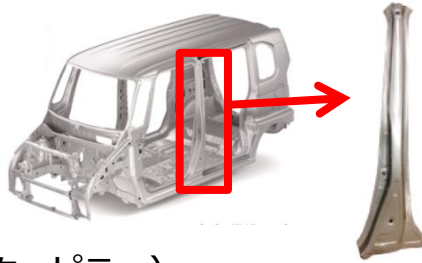
実際に、冷間ハイテンの製法とホットスタンプの製法を比較します。

# 3) スーパーハイトン技術の競争力強化③

## 【超ハイトン材センターピラーアウターの冷間プレス加工量産化技術】

### ＜センターピラー（外板）について＞

Honda  
「N-BOX」



(従来のセンターピラー)

軟鋼+  
ハイトン材  
外観精度等の観点から内板部品にハイトン材を使用することで強度をカバー

(新技術でのセンターピラー)

丸順オリジナル技術により、  
ハイトン材での外観精度向上

超  
ハイトン材

1180MPa級超ハイトン材の外板部品量産化⇨内部のハイトン補強部品を省略  
⇨**軽量化**

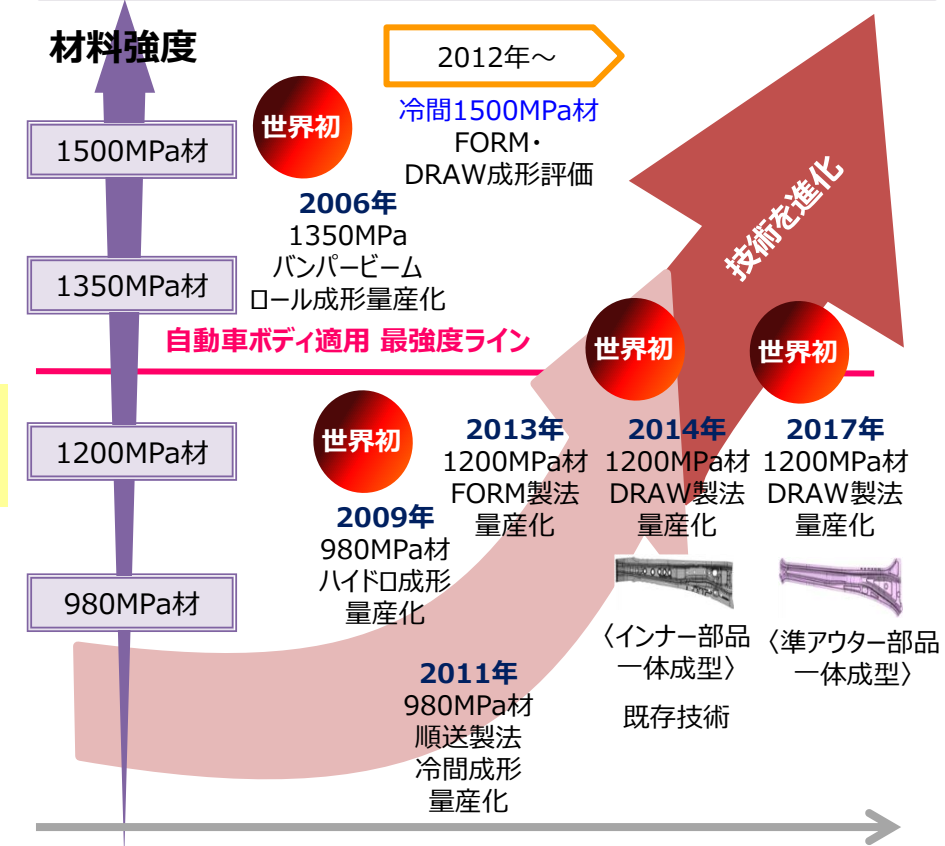
Honda  
「N-VAN」



当社の超ハイトン材センターピラー（外板）がN-BOX, N-VANの**2車種量産中**

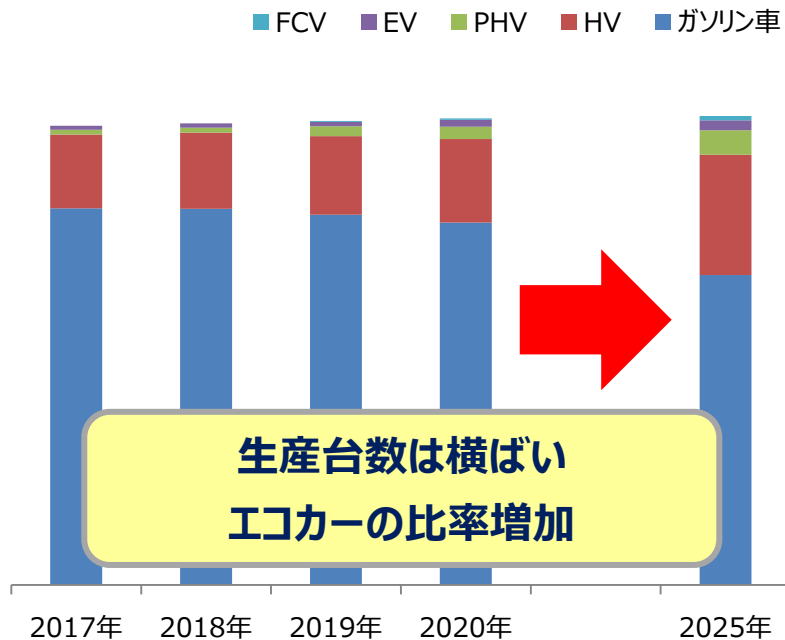
### ＜超ハイトン技術の展開＞

世界TOPレベルの技術力を目指し冷間超ハイトン1500MPaに挑戦中



ハイトン受注部品及び1200MPaアウター部品の受注拡大を推進中  
また、究極のウルトラハイトン1500MPa材の量産化を目指して研究開発を推進中

## 【日本自動車業界の動向】



### 日本における技術の確立

#### 【新素材・新技術へのチャレンジ】

#### (バッテリーケースのアルミ化)

当社が積極的に受注しているバッテリーケースにおいて、中国にて**アルミ製バッテリーケースを開発中。**

#### (アルミ溶接・加工技術の研究)

鉄よりも軽く、自動車軽量化の期待を担うアルミにおいて加工技術の向上を推進中。

アルミ製バッテリーケース



### 中国で電動化部品受注拡大

中国ではハイブリッド用部品・バッテリーケースの納入スタートに加えてEV部品受注。EVメーカーとの取引も決まり、業容拡大中

主力であるボディ部品事業を維持しながら  
今後、比率が増加していく

**電動化関連部品の受注に注力する**

ハイテン・超ハイテンを極めることに基軸を置きながら、電動化対応でアルミ加工にも挑戦中



# 4) 電動化関係部品の受注拡大②

## 【電動化関係部品の受注実績】

日本

SUBARU  
フォレスター e-BOXER



日産  
ノート e-POWER

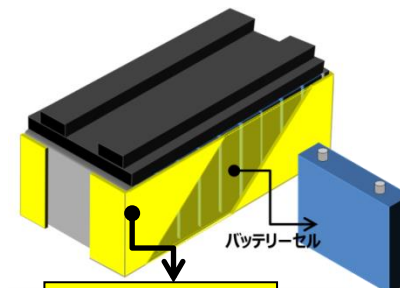


日産  
セレナ e-POWER



2020年  
量産化予定

【バッテリーモジュール イメージ】



丸順受注部品

中国

ホンダ  
CR-V HV



ホンダ  
ELYSION HV



ホンダ  
VE-1 EV



タイ

ホンダ  
ACCORD HV



日本・中国・タイの全拠点で電動化関係部品を受注

## 【全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化】

- **原価及び基幹システムの再構築による生産性向上**  
業務提携先の東プレ(株)のノウハウも活用し、**個別原価・投資評価等の新管理方法展開中 & 基幹システムの再構築を推進中**
- **スマート倉庫のグローバル展開による物流改革**  
**日本・タイ・中国全ての拠点にてスマート倉庫の導入完了**  
生産・物流の更なる効率化に寄与
- **KPI(Key Performance Indicator)方式によるグローバル体質管理の推進**  
グループ横串の重点管理項目を設定し、月度での進捗管理を展開中  
**管理項目の追加**及び**基準の見直し**により更なる体質管理向上を目指す



全拠点で稼働したスマート倉庫(自動倉庫)

## 【人材の「人財化」】

- **グローバルでの人材採用・育成・活用**  
金型設計領域における**ベトナム人材の活用推進中**  
設計領域の能力強化及び受注競争力強化を図る  
日本での**グローバル人材の新卒採用決定**
- **ダイバーシティ推進**  
**ベトナム人派遣社員の活用**及び**女性プロジェクト発足**による企業の活性化  
推進中。海外子会社における現地スタッフの幹部登用の目標値を設定し推進



逆駐在制度により  
日本で金型技術を学ぶ中国・タイの  
子会社の従業員（上石津工場にて）

ものづくり以外の領域では、経営管理システムの強化を図る



## 追加戦略

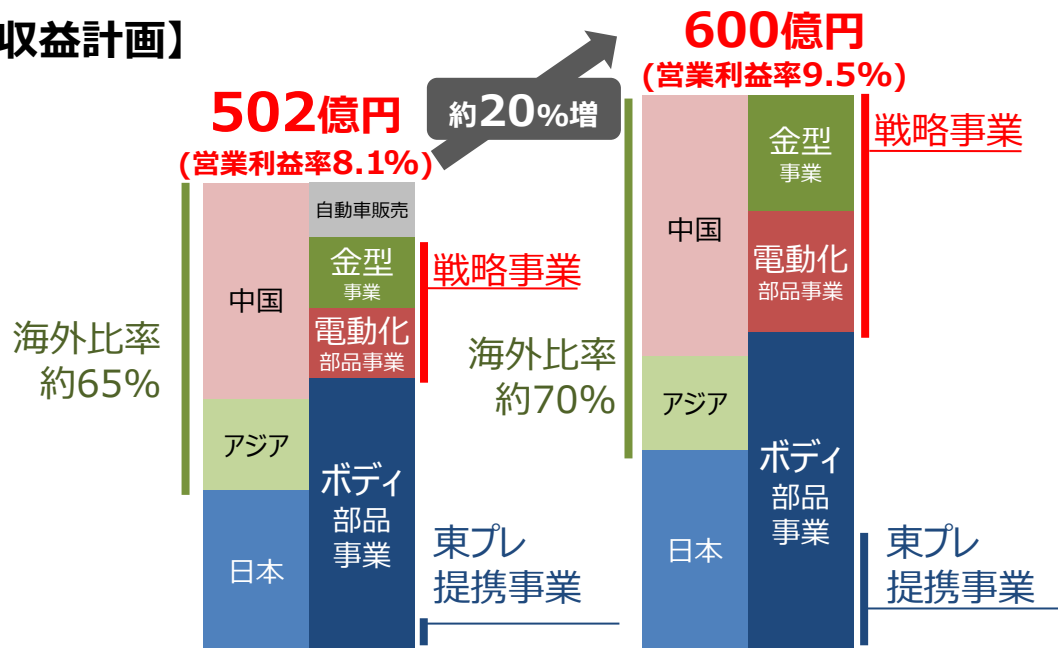
- ①【ICTを活用したモノづくりの進化と業務改革の推進】
- ②【業務改革による間接コスト削減】
- ③【次世代幹部育成(若手の登用・抜擢)】



- ICT活用による間接コスト削減及びモノづくりの進化  
CAEシステム強化により、**CAE解析を活用した業務効率向上**を図り、間接コスト削減を展開中
- 業務改革による生産効率UP  
アンドンによる、**作業現場とリフトを連携**し供給工数の削減を図る
- 業務改革プロジェクト発足  
若手を中心としたプロジェクトを発足し、メンバーの新しい発想により**業務改革を行い間接コストの削減**を推進中
- 若手の監督者への抜擢  
若手の**監督職への抜擢**及び**業務ローテーション**により**人材の底上げとモチベーションUP**を図る

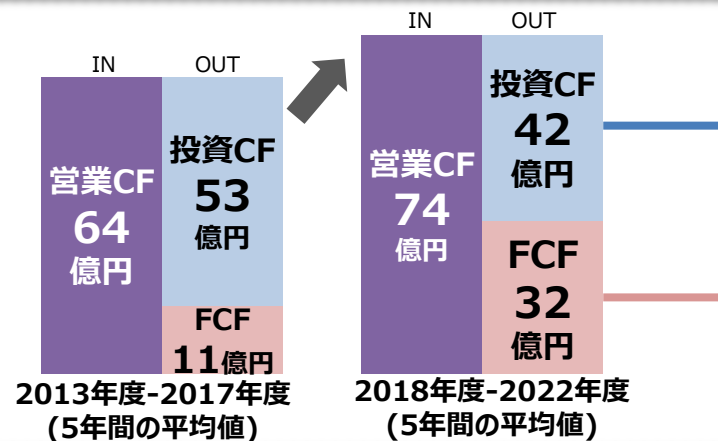
ICTの活用や若手の育成により、新しい発想を取り込み、更なる企業価値向上を目指す

## 【収益計画】



## 【キャッシュバランスと投資計画】

- 5年間の設備投資 210億円
  - 専用投資 90億円(量産用新機種金型等)
  - 汎用投資 120億円
- <主な汎用投資>
  - ・大型トランスファープレス機(日本) ・スマート倉庫(中国)
  - ・金型生産設備(日本・タイ・中国)
  - ・次世代溶接ライン(日本・タイ・中国)



- 5年間のFCF 160億円
    - 有利子負債圧縮→5年間で100億円超圧縮
    - M&A等の原資
    - 配当(2019/3月末復配：年間3円)
- 安定配当を基本としながら、目標に対する進捗度と設備投資とのバランスを考慮の上、更なる株主還元を目指す。

	2017年度実績	2018年度実績	2022年度目標	2017年度対比
売上高	502億円	501億円	<b>600億円</b>	約20%増
(内) 東プレ提携事業売上高	10億円	25億円	<b>100億円</b>	10倍
(内) 戦略事業売上高	50億円	71億円	<b>150億円</b>	3倍
営業利益率	8.1%	8.7%	<b>9.5%</b>	1.4point増
自己資本比率	13.4%	20%	<b>40%</b>	約3倍

中長期5か年計画の目標数値は変更なく推進

## 1.会社概要

\* 会社概要 \* 沿革 \* 事業概要 \* 国内・海外拠点 \* TOPICS

## 2.決算概況

\* 連結決算概況 \* 2018年度実績経常利益増減要因 \* セグメント別売上高、経常利益  
\* 2019年度業績予想

## 3.客先・受注部品状況

\* 客先別構成比率・主要顧客 \* 拠点別受注車種 \* 新規受注状況

## 4.中長期計画の進捗状況

\* 中長期5か年ビジョン \* 基本戦略1～6 \* 追加事業戦略 \* 数値計画

## 5.投資家の皆様へ

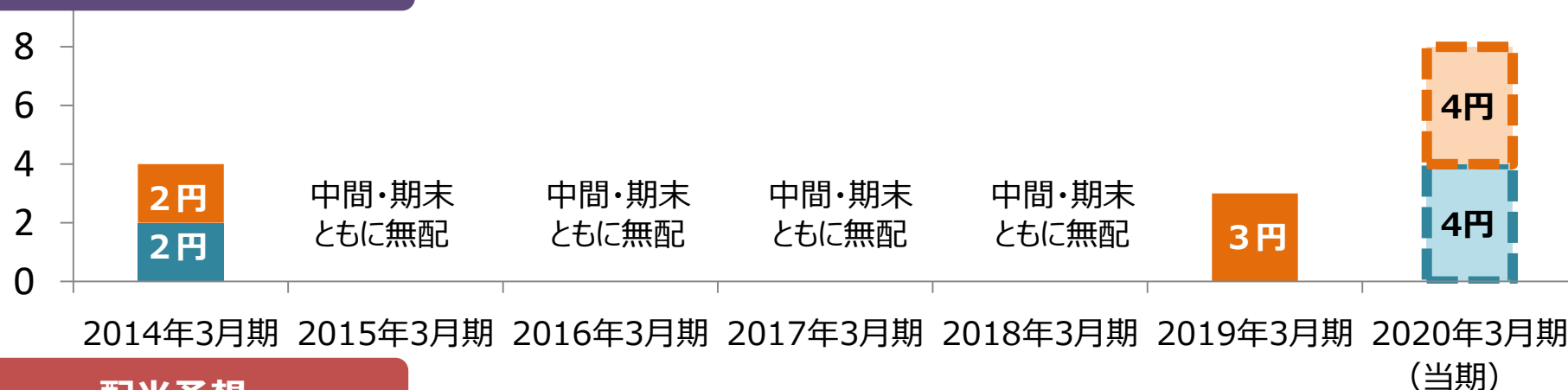
\* 配当について

## 配当の基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元が経営の重要政策の一つと考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った安定的・継続的な成果配分を行う

## 配当の推移

■ 中間 ■ 期末



## 配当予想

前期（2019年3月期）の配当につきましては、業績、今後の動向及び配当原資となる個別財務諸表の見通し等を勘案し、1株当たり3円の配当とさせていただきます。株主の皆様におかれましては長らく無配となり、大変ご迷惑をおかけいたしました。当期（2020年3月期）の配当予想につきましては、継続性、株主還元向上等の様々な側面から検討し、上記の通りの配当予想といたしましたので御理解賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました



当社ウェブサイトにてIR情報をご提供させていただきます



[www.marujun.co.jp](http://www.marujun.co.jp)

この資料は、株式会社丸順（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。